

# 標高差と品種の組合せで水稲作付けを拡大できる (川俣町)

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業

小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証

研究課題名 標高差を活かした水稲作付け規模拡大モデルの検証（川俣町）

担当者 三本菅猛

## I 新技術の解説

### 1 要旨

営農再開地域では、担い手不足が深刻な状況にあり、地域の農地を有効に利用するために、担い手農家の規模拡大が求められている。そこで、川俣町において、標高差と品種を組み合わせることで水稲を作付けしたところ、田植え、稲刈り等、農繁期の作業が効果的に分散された。

- (1) 川俣町において、標高の異なる3地区を選定し、標高550mの農地で「里山のつぶ」6.4ha、標高420mの農地で「ひとめぼれ」2ha、標高220mの農地で「コシヒカリ」1haを作付けした。
- (2) 各地区の田植えは5月8日から6月1日にかけて、稲刈りは10月1日から10月24日にかけて、標高の低い地区から実施した。
- (3) 刈取適期は、農研機構メッシュ農業気象データ（The Agro-Meteorological Grid Square Data, NARO）の積算気温により予想した。
- (4) 標高差と品種の組合せにより、約10haの水稲栽培を実証することができたが、メッシュ農業気象データを活用すると、「ひとめぼれ」の刈取作業の前進、「コシヒカリ」の面積拡大等で、さらなる面積の拡大が可能と考えられた（図1、2）。

### 2 期待される効果

- (1) 阿武隈中山間地域等で、標高差のあるほ場を活用した水稲栽培の規模拡大に活用できる。

### 3 活用上の留意点

- (1) 気象データ等から積算温度を計算し、予め標高に適した品種を選定する必要がある。
- (2) 生産者の機械装備を考慮して、規模拡大モデルを策定する。

## II 具体的データ等

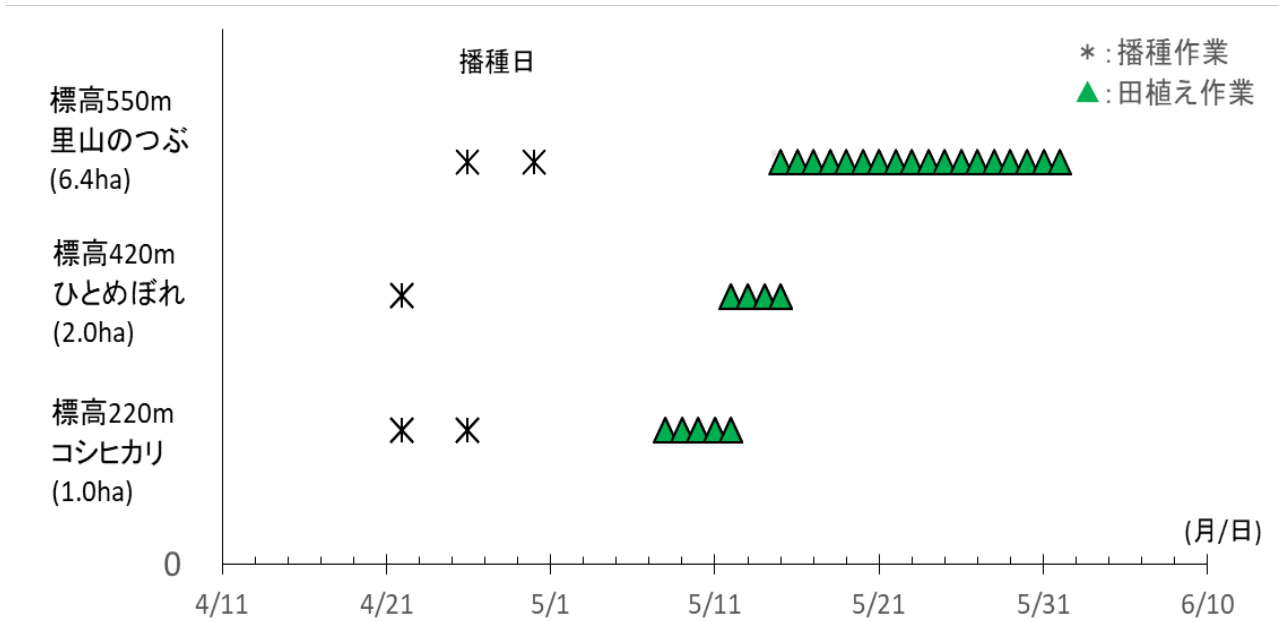


図1 標高差と品種の組合せによる播種時期と田植え時期

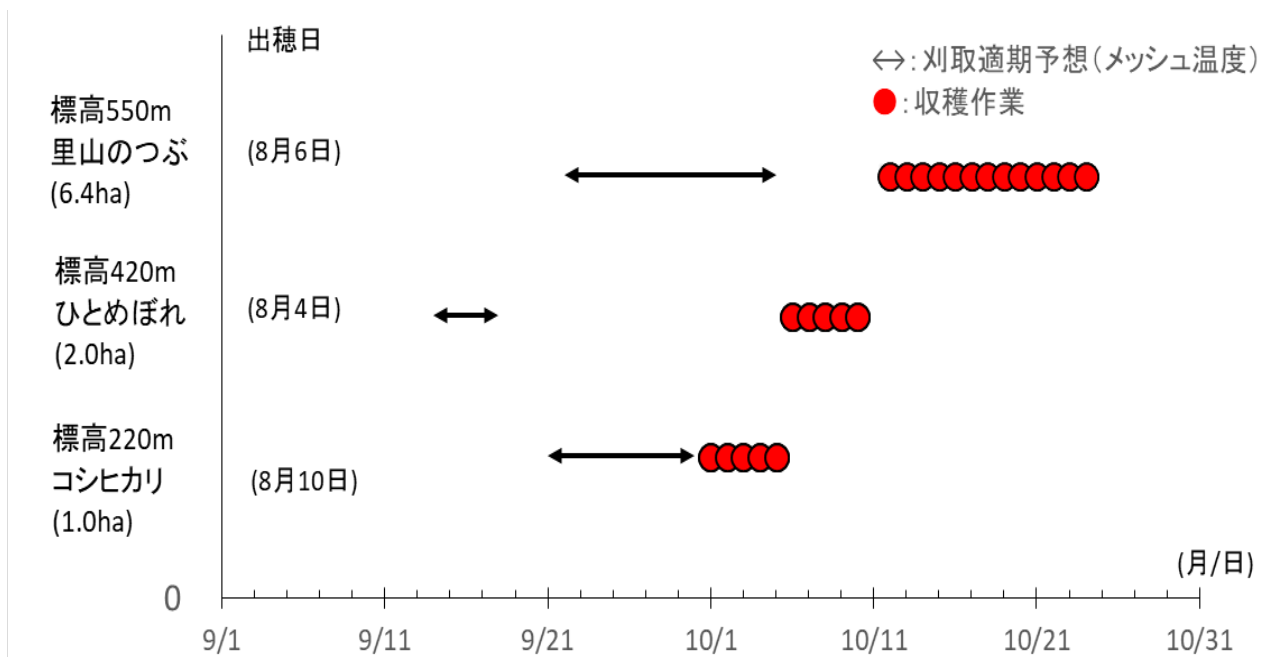


図2 標高差と品種の組合せによる刈取適期と実際の稲刈り時期

## III その他

### 1 執筆者

三本菅猛

### 2 実施期間

令和元年度

### 3 主な参考文献・資料

なし